

福祉新聞 2010 年 2 月 22 日 (月)

<知的障害者取り押さえ急死事件>

近く佐賀で刑事裁判

遺族ら「真相が知りたい」

2007 年 9 月に佐賀市内で知的障害のある安永健太さん (当時 25) が警察官 5 人に取り押さえられて急死した事件を巡り、真相を究明しようと「安永健太さんの死亡事件を考える集い」が 16 日に衆議院議員会館で開かれ、遺族、支援者、与野党の国会議員など 100 人近くが参加した。集い実行委員会の主催。



応援を求める安永さんの父・孝行さん (左) と弟・浩太さん

安永さんの遺族は、取り押さえた警察官らを佐賀地検が起訴しなかったことに対して「納得がいかない。事件現場で何があったのか知りたい」として、2008 年 4 月、佐賀地裁に刑事裁判を開くよう求め付審判請求を行った。

付審判請求とは、警察官の暴行などを告訴・告発した人が、検察官による不起訴処分に対する不服がある場合に、裁判所に対して審判に付すよう求めること。

この請求が認められ、2009 年 3 月、付審判の開始が決定。春には刑事裁判が始まる見通しのため、今回の東京での集会開催には、事件への全国的な関心を集め、「真相解明を」、「障害への理解を」と世論の後押しを得る目的がある。

遺族らの説明によると、安永さんは、自転車に乗っている時に交差点でバイクにぶつかり転倒。警察官 2 人が歩道に移動させたが安永さんが暴れたため、計 5 人の警察官で後ろ手に手錠をかけて取り押さえた。この時に警察官が暴行を加えたという目撃証言もあったが、事実かどうかは明確になっていない。

佐賀県警は「適切に保護した」と説明、佐賀地検も「保護行為の範囲内」として不起訴にした経緯があり、事実関係の究明は今後の裁判にかかっている状況だ。

同日の集会では、佐賀から上京した安永さんの父親の孝行さんが「警察や検察への不信感でいっぱい。本当に悔しい」、弟の浩太さんが「死んだのに『保護した』と言えるのか」などと語り、応援を求めた。

また、代理人の河西龍太郎・弁護士は「警察が都合の悪いことを隠していると思う。壁は厚いが裁判で事実関係を明らかにし、警察の責任を認めさせ、遺族への補償をさせたい。知的障害者に対して『おい、こら』警察で良いのかも問題にしたい」などと話した。